

成果報告書

令和7年度実践的な防災行動推進に資する災害の記録・課題・教訓の 継承等に関する調査・分析業務

【仕様書(2) 地域における災害教訓の継承・伝承等優良事例の収集・分析】

2026年3月9日

一般社団法人みなみあそ観光局

目次

- 業務報告書（活動内容について）
 1. 取組みの目的・概要
 2. 実施内容
 3. 来年度以降の計画等について
 4. まとめ

業務報告書（活動内容について）

1.取組の目的・概要

(1)取組の背景	• 本団体は、平成28年（2016年）熊本地震の記憶や経験、得られた教訓を確実に後世に伝える回廊型のフィールドミュージアム「熊本地震 記憶の廻廊」の中核拠点施設として整備された「熊本地震震災ミュージアムKIOKU」の指定管理を受託し、教訓を適切に継承するための施設運営、企画を行っている。 • 震災直後に震災遺物の保存、映像・写真等のアーカイブ等を行っているものの、時間の経過とともに、震災遺物や新たな資料を保存・収集することが難しくなっている課題がある。 • また、「熊本地震 記憶の廻廊」の中核拠点である旧東海大学阿蘇キャンパスには、東海大学の旧校舎及び地表断層を一体的に震災遺構として保存・展示しているが、こうした震災遺構について一部専門的な内容が含まれており、内容が少しわかりづらいという課題がある。
(2)取組の目的	• 熊本地震震災ミュージアムは、基本方針に「進化するミュージアム」を掲げており、熊本地震の記憶や教訓を風化させないことが重要である。 • また、震災遺構について、関心が無い方々についても理解してもらえるよう、専門的な内容も分かりやすく解説する工夫を行う等、熊本地震の記憶や教訓が伝わる環境を構築する必要がある。

1.取組の目的・概要

(3)実施 内容	①取組の全体像 と実施項目	1. 震災に関する資料収集及びその活用 (1)震災に関する資料の収集・デジタル化 ・ 新聞社、テレビ局などメディア系、映像制作会社等からの記録映像や写真の収集 ・ 収集資料のデジタルデータ化、リスト作成、及び展示利用に向けた権利処理業務 (2)展示・普及啓発コンテンツ作成 ① 展示室2壁面パネル ・ 収集した資料を活用して、地震前、地震直後、復旧後を対比し、復興の歩みを学びつつ、「回廊型ミュージアム」として震災遺構現地への周遊促進を図る学習用パネルを作成・提示する。 ② 動画制作 ・ 「熊本地震 記憶の廻廊」及び中核拠点施設のP R動画を作成し、HP等で情報発信するとともに、記憶の廻廊の周遊を促す。 ・ 来年度以降、中核拠点を核とした「熊本地震 記憶の廻廊」のモデルコースツアー造成に向けて、ツアー前の事前学習やP R動画として使用することも想定。 2. 震災遺構を解説する看板の整備 (1)解説デザイン・コンテンツ制作 ・ 断層のズレや建物の損壊メカニズムを、図解やイラストを用いて直感的に理解できる屋外用解説パネルへとデザイン製作し、屋外用耐候パネルに印刷して設置する。
	②取組の成果物	1. 震災に関する資料収集及びその活用 ・ 展示室2壁面パネル ・ 「熊本地震 記憶の廻廊」及び中核拠点施設のP R動画 2. 震災遺構を解説する看板の整備 ・ 遺構解説パネル
	③取組による効果	1. 震災に関する資料収集及びその活用 ・ 「進化するミュージアム」の方針のもと、収集した貴重な記録を「復興の歩みを可視化」する学習用パネルや映像コンテンツとして活用し、来館者の学びを深化させる。これらを防災教育の教材として広く発信することで、記憶の風化を防ぎ、具体的な「自らを守る」防災行動へとつなげていく。 2. 震災遺構を解説する看板の整備 ・ 震災遺構そのものを「雄弁な教材」へと転換し、ガイド不在でも来訪者が自ら学び、被災の実態や教訓を深く理解できる環境を構築する。

1.取組の目的・概要

(4)実施スケジュール	・ 1月上旬：委託先選定・契約（1月26日 業務委託契約締結） ・ 1月中旬～2月下旬：震災に関する資料収集、動画等コンテンツ作成 ・ 2月27日：各成果物の納品・検収完了、パネル設置 ・ 3月上旬：内閣府事業としての成果報告書（本紙）を提出
(5)実施体制・役割	みなみあそ観光局（本事業の契約主体／熊本地震震災ミュージアムKIOKU運営団体） ・ 事業統括、全体進行管理、成果物受領 熊本県観光文化部観光文化政策課 政策・総務班（フィールド型ミュージアム「記憶の廻廊」取りまとめ） ・ 事業実施内容の検討、制作物のチェック、利活用の検討 株式会社Hub.craft（外注先） ・ PR動画コンテンツの企画・撮影・編集 株式会社ON-do（外注先） ・ 震災記録資料の収集・デジタル化・権利処理 ・ 展示室パネルおよび遺構解説看板の企画・デザイン・パネル出力

2.実施内容

(1)実施 内容	①震災に関する資料収集及びその活用について	- 震災遺構（全59箇所）について、発災前・発災直後・現在（復旧後）の3時点の比較ができる写真を中心に、地元住民やカメラマン、メディア等からの収集・権利処理を実施し、デジタルアーカイブとしてリスト化した。 - 収集した写真データ等を活用し、KIOKU展示室2の壁面スペースに、復興の歩みを可視化し、県内の他遺構への周遊を促すための学習パネルを製作・設置した。 「記憶の廻廊」の広域的な周遊を促すため、ドローン空撮等を交えたPR映像（本編2分、ショート版SNS用）を制作した。
	②震災遺構を解説する看板の整備について	旧東海大学阿蘇キャンパスの地表断層や被災校舎について、専門的な地質学・建築学のメカニズムを、インバウンドや子どもでも直感的に理解できるようインフォグラフィックスを用いて翻訳・再構築した屋外用解説パネルをデザインし、耐候仕様で設置した。



震災前後の資料画像の収集



県内の震災遺構の案内パネル



県内の震災遺構の案内解説パネル



「記憶の廻廊」PR動画の制作

2.実施内容（活用したデジタル技術）

(2)活用したデジタル技術	①動画におけるドローン空撮およびモーショングラフィックス	点在する震災遺構を「面」として繋ぐ「記憶の廻廊」の概念を視覚的に伝えるため、ドローン空撮とモーショングラフィックスを組み合わせ、広域なフィールドミュージアムのスケール感を直感的に伝えるデジタル映像表現を活用した。
	②アナログ資料のデジタルアーカイブ化	経年劣化のリスクがある紙焼き写真や、住民・メディアの元に分散していた被災当時の写真データを高解像度でスキャン・補正し、リストを整理し、一元管理可能なデジタルアーカイブとして構築した。
	③インフォグラフィックス技術	専門的な解説テキストに依存せず、直感的に分かりやすいグラフィックスを用いて、視覚的な理解を促進した。



モーショングラフィックスの活用



ドローンの活用

震災記録収集写真一覧

1【重点収集】主要震災遺構・拠点		2【情報収集】震災遺構				
管理ID	区分	市町村	物件名	時点	写真/写真ファイル名	撮影年月日
KI0KUJ-001	拠点	宇土市	船場橋	地震前	001_uto_senbanashi_mae	2008.04
				震災	001_uto_senbanashi_ato	2016.04
				現在	001_uto_senbanashi_genzai	2021.01
KI0KUJ-002	網羅	宇土市	旧高月郡	地震前	002_uto_takatsukibei_mae	2012.12
				震災	002_uto_takatsukibei_ato	2016.04
				現在	002_uto_takatsukibei_genzai	2019.05
KI0KUJ-003	網羅	宇土市	瀬川家墓地	地震前	003_uto_hosokawabochi_mae	2011.1
				震災	003_uto_hosokawabochi_ato	2016.1
				現在	003_uto_hosokawabochi_genzai	2019.09
KI0KUJ-004	拠点	大津町	新田神社と巨石	震災前	004_otsu_setsujima_ato	2016.4.19
				現在	004_otsu_setsujima_genzai	2020.2.16
				地震前	005_otsu_etsukue_mae	2009
KI0KUJ-005	網羅	大津町	江藤家住宅	震災前	005_otsu_etsukue_ato	2016.4.16
				現在	005_otsu_etsukue_genzai	2020.5.25
				地震前	006_otsu_shimode_mae	2003.3.24
KI0KUJ-006	網羅	大津町	下井手屋形井屋	震災前	006_otsu_shimode_ato	2016.4.28
				震災	006_otsu_shimode_genzai	2021.2.12
				現在		
KI0KUJ-007	網羅	白旗村	ガードバイパス(大切畑ダム村迄直道高松側)	震災前	007_nishihara_guardbypass_ato	2016.03.29
				震災	enda	2016.03.17
				現在		
KI0KUJ-008	網羅	西原村	ガードレール(大切畑ダム村迄)	震災前	008_nishihara_guardrail_ohkura	2016.05.26
				震災		
				現在		

デジタルアーカイブ化



看板でのグラフィックの利用

3.来年度以降の計画等について

(1)来年度以降の計画について	①来年度以降の取組方針 (成果物の普及先についても記載)	- 今年度の実施事項として作成した資料、展示物、動画等を活用し、展示活動を行う等、具体的な継承活動の実践を来年度以降に実施する方針。 - また、今回収集した資料を熊本県のデジタルアーカイブの取組と連携しつつ、AI等を活用しながら、利用者が欲しい情報にアクセスしやすくするユーザビリティ向上を検討。
	②本格的な実践活動の内容 (成果物の活用方策等)	- ミュージアムでの常設展での活用 - 周遊ツアーの企画 - 収集した資料やデジタルアーカイブの、学校での授業や修学旅行等への活用
	③来年度以降の実践活動のスケジュール	令和8年4月（熊本地震から10年）の節目に合わせ、KIOKU館内での展示・映像放映を本格運用開始。春～秋の修学旅行・研修旅行シーズンに向けて「記憶の廻廊周遊モデルツアー」の展開を実施。
	④来年度以降の実践活動の実施場所	- ミュージアムKIOKU内（シアターおよび展示室2）、記憶の廻廊を構成する各震災遺構現地 - 学校等、外部での出前授業等での実践活動も想定
	⑤実践する防災教育で連携する団体、自治体	熊本県、記憶の廻廊構成9市町村（熊本市、宇土市、宇城市、御船町、益城町、西原村、南阿蘇村、大津町、阿蘇市）、教育関係機関、旅行会社など
(2)今後の課題について		震災から10年が経過し、震災を直接体験していない世代が増加する中、単なる「記録の展示」にとどまらず、来訪者自身が「自分事」として捉え、具体的な防災行動への変容をいかに促すかが課題である。収集したアーカイブを継続的にアップデートし、活用できる仕組みの維持が必要となる。

4.まとめ

(1)まとめ	本団体は、熊本地震の教訓継承と広域的なフィールドミュージアムへの周遊促進の目的のため、散逸しつつある震災記録資料の収集とデジタルアーカイブ化、それらを活用した展示・解説パネルの設置、およびPR動画の制作を実施し、震災から10年を前に「進化するミュージアム」の教育・発信基盤を強化する成果を得た。
(2)他地域への展開（横展開）の可能性や課題	点在する遺構群を「記憶の廻廊」という一つの面として捉え、統一されたグラフィックパネルや映像、デジタルアーカイブでネットワーク化する本手法は、南海トラフ地震や首都直下地震など、広域かつ甚大な被害が想定される他地域の災害教訓伝承モデルとしても応用可能である
(3)活用したデジタル技術の有用性や課題	ドローンやモーショングラフィックス、インフォグラフィックスなどの技術は、被害の脅威やメカニズムを非言語的・直感的に伝える上で極めて有用であった。今後は、多言語対応やアクセシビリティの向上など、多様な利用者に向けたデジタル技術のさらなる活用が望まれる。
(4)今後想定される大規模地震（南海トラフ地震、首都直下地震等）を見据えた取組や対応（ある場合は記載）	熊本地震で得られた「前震・本震の連続発生」「活断層の脅威」「広域インフラの寸断」といった教訓を、今後発生が懸念される大規模地震に対する事前の備えに直結させるため、整備した動画やパネルを通じて、避難行動の再確認や家具固定の徹底など、実践的な防災行動を促す教育活動を強化していく。